



## 島根あさひ社会復帰 促進センターの 取り組み



### 島根あさひ社会復帰促進センター シンボルマーク

中央に描かれている「ハクチョウ」は島根県の県鳥であり、古くからこの地方に渡来しており、特に、宍道湖、中海は本州におけるコハクチョウの集団越冬地の南限地として、全国的にも有名な地域です。

2羽のハクチョウは、島根あさひ社会復帰促進センターに勤務することになる国の職員である刑務官と民間事業者の職員を表現しており、新たに島根県に赴任してくる職員が、「ハクチョウ」と同様に県民の皆様に親しまれることを願っております。

また、「ハクチョウ」が支えている「天秤」は、傾斜を敏感に表現するものでありますが、官民が協働して施設を運営することを表すとともに、被収容者への「公正」、「平等」という処遇の原則を示したものです。

島根あさひ社会復帰促進センターに勤務する職員は、理性と感情のバランスがとれた、公正で調和を尊ぶ人でなければならないことを表しています。

(島根あさひ社会復帰促進センター開所5周年記念フォーラム報告書 裏表紙より)

島根あさひ社会復帰促進センターは、「官民協働の運営」を行うとともに、「地域との共生」を図ることにより、「国民に理解され、支えられる刑務所」を目指すという基本方針の下、改善更生の可能性が高い初受刑者に、多様で柔軟な処遇を試みています。最終的には「人材の再生」が当センターの目標です。

### 1 刑を終えて出所した人の 社会復帰に向けた取り組み

受刑者アンケート調査<sup>(注1)</sup>の結果、「出所後の生活のために、刑務所でしてほしいことは」の問いに対して、「社会復帰に必要な知識・技術の教育」58.7%、「職業訓練」54.7%、「就職先の斡旋」51.8%との回答が多くなっています。就業と再犯の関係性が強く言われていますが、受刑者自身の要望としても、この点が非常に重要であることが裏付けられました。

#### 1) 職業訓練

当センターの職業訓練は、基礎科目と専門科目に分かれています。基礎科目は、全受刑者が受講しており、ビジネスマナーや一般常識を身に付けさせるため、職業人としての基礎を学ぶ講座を開設しています。ビジネススキル科、ボランティア啓発科、安全衛生品質管理環境配慮科、PC基礎科の4科目になっています。

専門科目は、受刑者の希望に応じて受講させており、資格取得が可能なものや社会での需要が高い種目を選定しています。理容科、医療事務科、ホームヘルパー科、調理科(パン職人)、PC上級科、CAD技術科、建設機械科、点字翻訳科、音訳科、販売サービス科、デジタルコンテンツ編集科の11科目になっています。



ホームヘルパー科



建設機械科



理容科

#### 2) 無料職業紹介事業

本年1月、協働運営する民間事業者が、厚生労働省から無料職業紹介事業の許可を受けました。これでハローワークを介さずに職業を斡旋できるようになりました。ハローワークが紹介していなかった自営業者や小規模企業などの受け入れ先を探し、受刑者の技能に合う就職先を紹介することで、出所後の生活の安定と再犯防止を図る目的で開設します。受刑者アンケート調査では、「働くつもりがあるが仕事が決まっていない」が55%であり、これらの受刑者に広く働きかける予定ですが、既に数社の地元企業が応募しています。

#### 3) 盲導犬パピー育成プログラム

盲導犬パピー育成プログラムは、動物を介在した矯正教育プログラムとしては日本初の試みであり、受刑者4~6人が1組となり、生後2~4か月のパピー1頭を10か月育てています。また、社会性を身に付けさせるために、週末はウィークエンド・パピーウォーカーと呼ばれる地域のボランティア家庭にパピーを預けています。

このプログラムは、3つの使命を持っています。①より多くの盲導犬育成に貢献すること、②受刑者の再犯率の低下に貢献すること、③地域の活性化に貢献することです。本年1月で第5期が終了し、プログラム修了受刑者は121人、育成したパピーは28頭で、2頭が盲導犬、2頭がPR犬、9頭が盲導犬になるための訓練中です。また、受刑者の再入率も4.8%<sup>(注2)</sup>と低くなっています。





## 2 地域との交流

従来の刑事施設の存在は、社会や国民の目に触れられず、また、市民には関わりのないものとして、地域住民にとっては、社会的に必要とされるものの、身近にない方がよいとする、いわゆる「迷惑施設」と受けとめられています。このような状況下では、地域住民にとって収容されている受刑者は特殊な存在として、受け入れ難いものになります。受刑者を改善更生し、社会復帰させるには、地域住民が刑事施設に対する関心や理解を示し、また最終的には受刑者に対する理解を深めることが重要です。

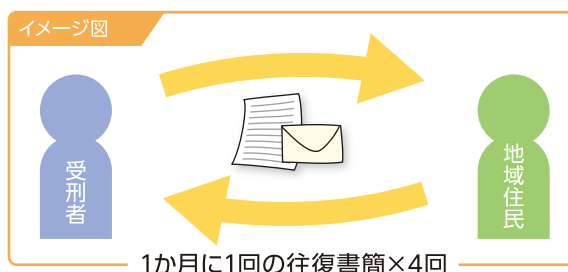
### 1) 社会復帰支援コミュニティの形成

当センターの敷地には、新たな街づくり構想として、「認定こども園あさひこども園」、「日本盲導犬協会訓練センター」及びビジターセンターが設置されており、地域コミュニティ活動の中心となっています。昨年7月には「夏祭り」を開催し、地元地域から多数の来場者を得ることになり、交流の機会となりました。そのほか、職員宿舎地区で始まった「ハロウィン祭」が「いまいちハッピーハロウィン」として、舞台を地元中心地に移し、多数の地域参加者が交流する地域行事として発展しています。

地元の中心地区にある公民館では、「今市地区の宝もの」と題する掲示物に、①転入された多くの若い世代の方達、②ふえた子ども達、③経験豊かな地元高齢者、④温かい地元の方々と気さくな地元商店、と記載されています。

### 2) 地域のちから

文通プログラムは、受刑者に地域参加者との文通の機会を付与することで、他者との良好な関係を築き、自己肯定感を高めさせることを目的に、1クールを約4か月、お互いペンネームでペアとなり、作成した手紙を1か月に1往復の発受信をするものです。この取組みは、地域社会として受刑者の改善更生に何らかの形で関わりたいとする「地域による発案」として創設されたものです。また、参加した受刑者の再入率も2.7%<sup>(注2)</sup>と低くなっています。



## 3 おわりに

最近、ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）という言葉が叫ばれています。これは、「全ての人々を孤独、孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合う」ということです。このような社会になれば、再犯を防止できていると思っています。

島根あさひ社会復帰促進センター長 手塚 文 哉

※注1：平成25年4月に島根あさひ社会復帰促進センターで実施した。回収票数は1,474票です。

注2：平成25年3月末現在、センター全体の出所者2,236人、再入者238人、再入率10.6%

盲導犬パピー育成プログラム出所者42人、再入者2人、再入率4.8% 文通プログラム出所者37人、再入者1人、再入率2.7%

